

まちの話題 あれこれ

身の回りに起きた出来事など、
楽しい情報をお寄せください。
役場企画財政課
(☎ 611-2724)

大盛況の奇祭「スミつけ祭り」 真っ黒な顔で無病息災を祈願



家族の健康を願いお互いの顔に
スミをつける参加者

城内地区に四百数十年前から伝わる奇祭「スミつけ祭り」が2月2日、煙山の実相寺（晴山弘俊住職）裏の観音堂で行われました。

祭りには町内外から約400人が参加。晴山住職らによる祈願の後、積み上げられたスギの枝に火がつけられ、夜空高く上がった炎の勢いが弱まるといよいよ祭りがスタート。参加者は、互いの顔に炭をつけ合い、祭りの御利益である一年間の無病息災を祈願するとともに、互いの真っ黒な顔を見て笑い、一年の幸せを望みました。

※写真展示を役場（2/28日～3/7日）とやはば（3/8日～15日）で開催。



たくさんスミをつけられた人には記念品
が贈られました

雪の下で保存した野菜は甘い！ 矢巾の魅力を発見する学び塾開催



地元の農産物をふんだんに使った昼食を食べる
参加者たち

町は、農業への理解と地元野菜の地産地消を推進する「地元学び塾 雪の下から冬野菜?!編」を2月3日に開催。参加者23人はキャベツの収穫体験や、冬に野菜を保存するときのポイントなどを学びました。

参加者は村松範子さん（ニンジン）と川村岩さん（キャベツ）の畑を見学し、昼食は収穫した野菜の食べ比べや食の匠村松真裕美さんが作ったイカ汁、町産の米やリンゴなどを試食。

キャベツの収穫体験をした大橋玄暉くん（広宮沢1区・6歳）は「キャベツが好きで、いっぱい食べたいから大きいものを収穫した」と話しました。



大きなキャベツを収穫して持ち上げる
大橋玄暉くん



真剣な眼差しでドローンを操縦

町では、家族ドローン教室を1月27日に町農村環境改善センターで開催。参加した親子など21組は、(一社)いわてドローン操縦士協会の会員から、ドローンの飛行ルールや操縦方法を熱心に学んでいました。



新入学に向け防犯などを呼びかけ

紫波地区地域安全推進協議会は2月19日、「新1年生のための防犯・交通安全教室」を開催。小学校入学を控える紫波地区の園児415人に、知らない人についていかないなど、防犯や交通安全について呼びかけました。



音楽を通じて心を豊かに

町は町民に音楽を身近に感じてもらう目的で、熊谷育美さんのコンサートを2月11日に田園ホールで開催しました。熊谷さんは楽曲「旅路」など12曲を観客に披露。透き通るような美しい歌声が会場全体を包み込みました。



環境問題について質問する小川結衣さん

矢巾町子ども議会(町教育委員会主催)が1月24日に町議会議場で開催され、小中学生24人が議員として出席。代表して6人が教育や環境などまちづくりについての質問や、町の将来についての提言を行いました。小川結衣さん(徳田小6年)は「緑を多くするために、住宅地や公園などに植樹をして建物と緑の共存を進められないか」と町に提言しました。

子どもたちは、議会当日までに学校ごとに町が抱える課題をみつけ、質問事項を考え、子ども議会を通してまちづくりへの参画意識と、自分たちで課題をみつけ解決する力を高めました。

若い目線で町の将来を議論
町子ども議会が開かれました



祝賀会であいさつする佐々木理事長

盛岡広域都市計画事業である「矢巾町広宮沢第二地区土地区画整理事業」が事業完了し、矢巾町広宮沢第二地区画整理組合(佐々木正夫理事長)は1月29日、町公民館で竣功祝賀会を開きました。

同組合員や工事関係者など約140人が出席。佐々木理事長は「販売が困難な時期もあったが、無事保留地を完売できた。この地区に居を構えた企業や個人の方の繁栄を願う」とあいさつしました。

同事業は流通業務地の形成と、宅地の利用促進を図る目的で実施。平成14年10月に組合を設立して、平成29年3月には保留地が完売となりました。

広宮沢第二地区の繁栄を願う
土地区画整理事業の祝賀会開催